

【C年】

顕現後第三主日

限りなくいます全能の神、天においても地においても万物を支配しておられる主よ、どうか慈しみをもって主の民の願いを聞き入れ、主による平安をこの時代にお与えください。主イエス・キリストによつてお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましよう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はネヘミヤ記第八章二節から」

2 祭司エズラは律法を会衆の前に持つて来た。そこには、男も女も、聞いて理解することのできる年齢に達した者は皆いた。第七の月の一日のことであった。3 彼は水の門の前にある広場に居並ぶ男女、理解することのできる年齢に達した者に向かつて、夜明けから正午までそれを読み上げた。民

は皆、その律法の書に耳を傾けた。

4 書記官エズラは、このために用意された木の壇の上に立ち、その右にマテイトヤ、シエマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤ、マアセヤが、左にペダヤ、ミシヤエル、マルキヤ、ハシム、ハシユバダナ、ゼカルヤ、メシユラムが立った。5 エズラは人々より高い所にいたので、皆が見守る中でその書を開いた。彼が書を開くと民は皆、立ち上がった。6 エズラが大いなる神、主をたたえると民は皆、両手を挙げて、「アーメン、アーメン」と唱和し、ひざまずき、顔を地に伏せて、主を礼拝した。

7 次いで、イエシユア、バニ、シエレブヤ、ヤミン、アクブ、シヤベタイ、ホデイヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、ヨザバド、ハナン、ペラヤというレビ人がその律法を民に説明したが、その間民は立っていた。8 彼らは神の律法の書を翻訳し、意味を明らかにしながら読み上げたので、人々はその朗読を理解した。

9 総督ネヘミヤと、祭司であり書記官であるエズラは、律法の説明に当たったレビ人と共に、民全員に言った。「今日は、あなたたちの神、主にささげられた聖なる日だ。嘆いたり、泣いたりしてはならない。」民は皆、律法の言葉を聞いて泣いていた。10 彼らは更に言った。「行つて良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第十九編 一節〜十二節

- 1 天は神の栄光を語り＝ 大空はみ手の業を告げる
- 2 日は日に言葉を語り継ぎ＝ 夜は夜に知識を伝える
- 3 言葉でもなく、話でもなく＝ その声は聞こえないが
- 4 その響きは地を覆い、その言葉は世界の果てに及ぶ＝
- 5 神は海に太陽の幕屋を据えられた
- 6 太陽は花婿のように住まいを出て＝ 勇士のようにその道を喜び走る
- 7 天の果てから姿を現し、その果てまで巡り行き＝ その熱から隠れ得るものはない
- 8 主の教えは完全で、魂を生き返らせ＝ 主の諭しは変わらず、心に知恵を与える
- 9 主の定めは正しく、心を喜ばせ＝ 主のみ旨は清く、目を開く
- 10 主の言葉は混じりけなくとこしえに続き＝ 主の審きは真実ですべて正しい

10 金よりもどんな純金よりもすばらしく＝ 蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い

11 あなたは僕はこれに教えられ＝ それを守って大きな報いを受ける

使徒書

朗読者 「使徒書はコリントの信徒への手紙Ⅰ第十二章

十二節から」

- 12 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数も多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。13 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15 だが、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしようか。16 耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしようか。17 もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。18 そこで神は、御自分の望みのままに、体の一つ一つの部分を置かれたのです。19 す

べてが一つの部分になつてしまつたら、どこに体というものがあつたでしょう。20 だから、多くの部分があつても、一つの体なのです。21 目が手に向かつて「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かつて「お前たちは要らない」とも言えません。22 それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分があつて、かえつて必要なのです。23 わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪く思われる部分を覆つて、もつと恰好よくしようと、見苦しい部分をもつと見栄えよくしようとします。24 見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。25 それで、体に分裂が起ころらず、各部分が互いに配慮し合つています。26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみます。一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」
司祭 「また、あなたとともに」
会衆 「聖ルカによる福音書第四章十四節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」
会衆 「主に栄光がありますように」

14 イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。15 イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

16 イエスはお育ちになつたナザレに来て、いつものとおりの安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになつた。17 預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目にと留まつた。

18 「主の霊がわたしのうへにおられる。
貧しい人に福音を告げ知らせるために、
主がわたしに油を注がれたからである。
主がわたしを遣わされたのは、

捕らわれている人に解放を、
目の見えない人に視力の回復を告げ、
圧迫されている人を自由に、

19 主の恵みの年を告げるためである。」
20 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にし

たとき、実現した」と話し始められた。

司祭しさい「主に感謝」
会衆かいしゅう「主に感謝します」